

「埼玉学園大学紀要(人間学部篇)」の創刊に寄せて

学長 峯 岸 進

ここに人間学部教員スタッフによる「埼玉学園大学紀要(人間学部篇)」が創刊されましたこと心よりお祝い申し上げます。

人間学部教員スタッフは、縁あって埼玉学園大学の創立メンバーとして集い、21世紀のスタートの記念すべき年に大学の開学を迎えたのであります。教員スタッフ一同は、本学の創立の趣旨と大学の使命を十分に発揮することに同意した研究者集団であります。

新しく21世紀がスタートしましたが、人類の未来に大きな諸課題を突きつけ、その解決を追っているのであります。

国内においては、20世紀における新技術の急激な革新とその科学への応用により、大量生産、大量流通、大量消費の規格量産型の資源多消費型の物質文明・生産第一の会社中心主義社会を作ってまいりました。

そこでの価値観は、生産の効率と資本の損益計算が最優先し、計算上に現れた成果が最も重視されるというものであります。そこでは、人間が生きる上で最も重要な人としての思いやりの心(他者への想像力)、心をおだやかにし、安心をもたらす芸術・芸能文化、地域の生活文化等を軽視ないし無視するという価値観が、学校、地域、社会、家庭で日常化してしまいました。

この結果、21世紀を迎え、地域社会の崩壊、学校・家庭の崩壊そして団結を誇ってきた会社までもが、人間・組織の崩壊をもおこしています。1年間の自殺者が3万人を超え、学校での学級崩壊、児童・生徒のいじめと登校拒否、親による子供への虐待、教師・警察官・裁判官等社会で最も良職人といわれる人たちの不祥事の頻発と、物質文明の発展のなかで、社会での人としての信頼感を失うような時代を迎えております。

外国においては、文明の衝突でもあるかのような、アメリカのマンハッタンビルへの同時テロの発生とそれへのアメリカの武力攻撃による戦争であります。アフガンを中心とする諸国の極度な貧困とその経済格差が攻撃対象となってい

るかのように見えるアメリカ。20世紀末に米ソの冷戦構造が崩壊し、新しい平和な世界が実現するかのようにみえたが、新たな戦争の世紀として21世紀が始まったのであります。

本人間学部は、こうした内外の大きな人類の課題、疎外を克服し、新しい人類の安心と安全、平和な心豊かな人間社会を実現すべく、人間の生活文化を歴史、言語、芸術、芸能、文学等グローバルに教育研究しようとしているのであります。

20世紀に築き継承してきた、人類の芸術文化遺産を心豊かな信頼と安心できる21世紀の新しい社会を創造する有為な人材の育成のために、大学人は、その職責を十全に発揮しなければならない使命を有しているものと考えています。

ここに、「埼玉学園大学紀要（人間学部篇）」の創刊号が発刊され、先生方の研究成果の発表の場として、広く研究交流が促進され、大学の使命を果たす良い機会となるものと確信しています。先生方の一層の研鑽を切に願いますのであります。

平成13年12月